

日本放射線影響学会第 64 回大会の開催にあたって

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックにより、昨年からは多くの国内・国際学会が中止あるいは遠隔開催になっています。第 63 回大会は遠隔のみでの開催となりましたが、やはり学会では対面で議論したいという希望も多数耳にいたしました。そのため、第 64 回大会は 3 密を避ける形での対面を中心としつつ、一部オンラインを併用しての開催とさせていただきます。COVID-19 の拡大はいまだに出口が見えない状況ですが、茨城県で初となる日本放射線影響学会大会のテーマに掲げた「原点回帰」に込めた、「同じ場所で研究者同士が議論する」というスタイルを少しでも取り戻すことができればと思っております。

茨城県は、1957 年に東海村にある原子力研究所で研究用原子炉が臨界に達し、日本で初めて原子の灯がともった場所でもあります。その 2 年後に起きた第五福竜丸事件を受けて日本放射線影響学会が設立されました。本学会設立に尽力された先人達の心意気に思いを馳せながら、放射線科学に関わる多様な分野の研究者が一堂に会して議論するという発足時のスタイルを意識した大会にしたいという意気込みで準備を始めました。特に、一般口頭発表セッションを充実させる方針で演題を募集させていただいたところ、若い研究者や学生の皆様から多数の口頭発表演題の応募をいただいたことは大会側としてたいへん嬉しく思っております。また、ポスター発表については、昨年の福島大会におけるオンライン経験を活かし、世界のどこからでも参加でき、議論ができるオンライン形式を採用し、オンライン討論の時間も設定いたしました。

その一方、高い理想を掲げて準備に取りかかったものの、時代の変化に収束が見えない COVID-19 が加わり、当初描いていた手作り感のある大会とまではできなかったように感じております。とはいえ、本大会が若い研究者や学生の皆様が中堅・シニア研究者と直接議論ができる機会となり、新しい時代の放射線科学の可能性を拓ける契機になればたいへん幸いです。参加者の皆様を心より歓迎いたしますとともに、活発な議論をお願いいたします。

日本放射線影響学会第 64 回大会

大会長 田内 広

(茨城大学大学院理工学研究科)

Welcome message from the Meeting President

Due to the pandemic of COVID-19, many domestic and international conferences have been canceled or held remotely since last year. The 63rd Annual Meeting of Japanese Radiation Research Society (JRRS) was held only remotely, but we believe that face-to-face discussions should be necessary in the academic conference. Therefore, the 64th Annual Meeting is held in combination with some online, while focusing on face-to-face meetings that avoid the “Three Cs (Closed-spaces, Crowded places, Close-contact setting)”. We posted the "return to origin" as the theme of the first meeting of the JRRS in Ibaraki Prefecture. We infuse the theme with the situation "researchers discuss at the same venue". Although the COVID-19 is still expanding in Japan, but we hope to regain the original style as much as possible.

Ibaraki Prefecture is the first place in Japan where an “light of atomic power” was lit when a research reactor reached a criticality at the Japan Atomic Energy Research Institute in Tokai Village in 1957. The JRRS was established in response to the Daigo Fukuryu Maru incident that occurred two years later. While thinking about the spirit of the forefathers who contributed to the establishment of this society, we prepared with the ambition to make the conference conscious of the style at the time of its inauguration, in which researchers from various fields related to radiation science gather and discuss. In this point of view, we started preparation of the meeting with the policy of enhancing general oral presentation sessions. Now we are very pleased as the convention side that we received a large number of applications for oral presentations from young researchers and students. We have adopted an online format for poster presentations, which allows participants from anywhere in the world to participate and discuss. For the purpose, we set a time for online discussions on the first day of the meeting.

Because of the still ongoing COVID-19 pandemic, we faced many difficulties to make the meeting with a handmade feeling that was originally drawn. However, we hope that this meeting will be an opportunity for young researchers and students to have direct discussions with mid-career and senior researchers, as well as to be an opportunity to expand the possibilities of radiation science in a new era.

We welcome the all the participants here and ask them the mutual, fruitful discussions.

The 64th Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society (JRRS)

The Meeting President Hiroshi Tauchi, Ph.D. (Ibaraki University)

日本放射線影響学会第 64 回大会 閉会にあたってのご挨拶

このたびは、急な変更等でご心配をおかけいたしましたにもかかわらず、多数の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

「原点回帰」を掲げて当初から対面での開催を目指して準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延には打ち勝つことができず、開催まで1ヶ月を切ったところで全面オンラインへの変更を決断いたしました。正直なところ、短い準備期間で果たしてうまくゆくのか大変な不安がありました。ご参加くださった皆様方のご協力を得て、大過なく、ここに閉会を迎えることができました。少人数での手作り運営のため、至らぬ点多々あったかとは存じますが、どうかご容赦下さいますようお願い申し上げます。

ここに無事大会を終えることができましたのは、ひとえにセッション進行を担当下さった座長や世話人の先生方、そして講演者の先生方のご協力の賜物であります。改めまして感謝申し上げます。また、渾身の体制で準備にあたってくださった実行委員の先生方、度重なるリハーサルにご協力くださったプログラム委員の先生方にも厚くお礼申し上げます。

加えまして、本大会の開催にあたって財政面でのご支援をいただきました多くの研究機関、法人、ならびに地元茨城の企業の皆様にも心よりお礼申し上げます。本来であれば個別にお礼の挨拶に回るべきところではございますが、ポケットプログラムの最後のページにご芳名を列挙させていただく形にて失礼いたしますことをご容赦ください。

繰り返しになりますが、会期中に活発な議論を展開くださった多くの参加者の皆様にお礼申し上げますとともに、今後の放射線科学のさらなる発展を祈念いたしまして閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。次回こそは大阪でお会いしましょう。

最後は、優秀演題発表表彰式にご参加いただいた皆様だけにわかる言葉で締めくらせていただきます。イバイバイ！

I would like to express my sincere appreciation to all the participants for their active discussion throughout the meeting. Now we are confident of a bright future for radiation research in Japan. See you in Osaka in 2022!

第 64 回大会長 田内 広 (Meeting President, Hiroshi Tauchi, Ph.D)